



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4601S		
科目名	ゼミナール I		
担当教員	宮脇 健		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 3		
講義室	1301	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP3-G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-F〔探究力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP6-K〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発（2%） C1 倫理的思考・社会認識（3%） E1 学識と専門技能（30%） G1 状況把握（10%） F1 探求と論拠（5%） F2 課題解決（5%） K1 ライティングコミュニケーション（5%） K2 オーラルコミュニケーション（5%） L1 チームワーク（25%） M1 省察力（10%）		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標とステージ 3. 発展期 ～ 4. 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理の基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要となる研修の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。学生自らが危機管理に関する問題を発見し、仮説を構築し、自力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげ、危機管理能力を養います。ここでは、問題意識を確立し、卒業研究につながる個人研究のテーマを決定すると同時に、先行研究を収集して専門領域に関する知識を獲得します。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき		

	効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード 問題意識、研究方法、グループワーク	
授業の趣旨	■副題 リスク社会を分析・考察するために、公共空間を通じて不寛容な社会について考えることにします。 ■授業の目的 公共空間では、様々な人が他者に迷惑にならないように最低限の配慮を行いながら思い思いに時間を過ごしています。しかしながら、近年では、例えば、公園では「〇〇を禁止する。」といった注意事項を目にすることが多くなり、出来ることは制限され、様々な制約を課せられた場になってしまっています。社会が多様化し、様々な人々がいかにして共存するべきか問われているにも拘らず、こうした規制はなぜ増えてしまったのでしょうか。公園をフィールドワークの場と位置付けながら、現代の不寛容な社会について考えていくために必要な、問題意識、そして、仮説の構築、先行研究の収集などのマインドとスキルと獲得することを目的としています。当然のことながらこの内容が4領域に関連します。 ■授業のポイント 公共空間を題材にしながら不寛容な社会について考えていきますが、学生の関心により、例えば、公園といっても何がリスクであるかは人により変わります。また、何を明らかにしたいのかという点は変わってきます。そのため、研究方法は様々なアプローチが考えられます（歴史的なアプローチによる分析、制度・政策の比較分析）。ただ、それを知るために足を運んで観察を行う必要はあります。そのため、フィールドワークを行います。また、研究の関心によっては、自治体にヒアリング調査に行くこともありますし、遊んでいる人に聞き取り調査を行うこともあります。様々な調査方法を問題意識に基づき、適切に駆使することで、公共空間を通じて危機管理に関する研究テーマの探求を行います。	
総合到達目標	公共空間を題材にしながらリスク社会について考察するために、研究に関する必要な方法論を理解し、そのために必要なスキルを修得する。 ■自分で公共空間に関する問題を発見し、説明できる。 ■その問題を社会科学の方法論を用いて実証的に検証できる。 ■卒業論文を書くために必要となる、引用文献の書き方、PCのスキルなどを身に付けることができる。 ■実証的な検証に関連して、その為の方法論と方法を実践するスキルを身に付けることができる。	
成績評価方法	■毎授業での報告：15回（40％）B1、E1、G1、F1・F2、K1・K2、L1 （評価の観点）報告では、自分もしくはグループの研究目的が的確に報告され、定義や専門用語の説明など、他者へわかるように説明できているのかどうか、適応ルーブリック評価の基づく項目に従いチェックを行います。 （フィードバックの方法）毎回、講評を行い、修正点を指摘します。また、学生同士の議論の内容についても後日、まとめ共有フォルダー内で返却します。 ■毎授業での議論：15回（30％）B1、C1、E1、G1、F1・F2、K2、L1、M1 （評価の観点）報告に対して、議論と質問を他の学生からしてもらいます。その時の発言が報告内容と研究に基づく内容かどうか、チェックを行います。 （フィードバックの方法）質問、議論の内容が収束後、教員から質問と議論の意図や指摘に関してコメントを行うことでフィードバックを行います。 ■報告用レジュメ：10回（20％）B1、C1、E1、G1、F1・F2、K1、L1、M1 （評価の観点）報告同様に、レジュメの形式要件と問題意識と先行研究の差異、仮説、検証方法が適切に記載されているかどうか、評価項目に従いチェックを行います。 （フィードバックの方法）報告と同様に、講評を行い、修正点を指摘します。また、後日レジュメに赤字かコメントをつけて学生に返却します。 ■グループでの貢献度（10％）B1、G1、M1 （評価の方法）グループでの活動の際に、必ず学生の役割を明記させて、その作業を当該学生が行っているのかどうかを判断して貢献度をはかります。 （フィードバックの方法）グループでの活動に貢献していない（フリーライド）している場合には、授業内の場合は、その場で改善するように指摘をします。	
履修条件	特にありません。	
履修上の注意点	特にありません。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 研究テーマの報告 1 ②授業概要 各人が公共空間に関する研究テーマの報告を5分程度行い議論することで研究グループを分ける。そのため、報告者は自分の問題意識を発見し、その内容について他者に説明

	できるようになる（E1、F1・F2、H1・H2、K1）。 ③予習(120分) 共有フォルダーにある資料と研究計画書の問題意識と方法について作成してくる。 ④復習（120分） 報告内容で指摘を受けたことを改善してくる。
2	①授業テーマ 研究テーマの報告 2 ②授業概要 各人が前回の指摘を踏まえて公共空間に関する研究テーマの報告を5分程度行い議論することで研究グループを分ける。そのため、報告者は自分の問題意識を発見し、その内容について他者に説明できるようになる（E1、F1・F2、H1・H2、I1・I2、K1）。 ③予習（120分） 共有フォルダーにある資料と研究計画書の問題意識と方法について作成してくる。 ④復習（120分） 報告内容で指摘を受けたことを改善してくる。
3	①授業テーマ 研究テーマの報告 3 ②授業概要 公共空間に関する研究テーマの内容を全員で議論して、共通する問題意識の研究グループをいくつか完成させる。そのため、受講生は自分の問題意識を発見し、その内容について他者に説明できるようになる（E1、F1・F2、H1・H2、K1）。 ③予習（120分） 共有フォルダーにある資料と研究計画書の問題意識と方法について再度作成してくる。 ④復習（120分） 報告内容で指摘を受けたことを改善してくる。
4	①授業テーマ グループによる研究テーマの選定 1 ②授業概要 各人の研究テーマを踏まえ、各グループでの研究テーマを再度検討する。そして、その内容をどのようにすれば検証可能かどうか、グループ内で研究計画書を作成して、その内容について報告を行う。その結果、方法論とその方法を的確に身に付けるためのスキルに関する理解と素養を身に付けることができる（B1、C1、E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1） ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布したグループ用の研究計画書の項目をすべて作成してくる。 ④復習（120分） 研究計画書の修正を行う。
5	①授業テーマ グループによる研究テーマの選定 2 ②授業概要 各人の研究テーマを踏まえ、各グループでの研究テーマを再度検討する。そして、その内容をどのようにすれば検証可能かどうか、グループ内で研究計画書を作成して、その内容について報告を行う。その結果、方法論とその方法を的確に身に付けるためのスキルに関する理解と素養を身に付けることができる（B1、C1、E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1） ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布したグループ用の研究計画書の項目をすべて作成してくる。 ④復習（120分） 研究計画書の修正を行う。
6	①授業テーマ グループによる研究テーマの選定 3 ②授業概要 各人の研究テーマを踏まえ、各グループでの研究テーマを再度検討する。そして、その内容をどのようにすれば検証可能かどうか、グループ内で研究計画書を作成して、その内容について報告を行う。その結果、方法論とその方法を的確に身に付けるためのスキルに関する理解と素養を身に付けることができる（B1、C1、E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1） ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布したグループ用の研究計画書の項目をすべて作成してくる。

	④復習（120分） 研究計画書の修正を行う。
7	①授業テーマ グループによる研究テーマの選定 4 ②授業概要 各人の研究テーマを踏まえ、各グループでの研究テーマを再度検討する。そして、その内容をどのようにすれば検証可能かどうか、グループ内で研究計画書を作成して、その内容について報告を行う。その結果、方法論とその方法を的確に身に付けるためのスキルに関する理解と素養を身に付けることができる（B1、C1、E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1） ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布したグループ用の研究計画書の項目をすべて作成してくる。 ④復習（120分） 研究計画書の修正を行う。
8	①授業テーマ グループによる研究活動 1 ②授業概要 研究計画に基づき、各グループは研究活動を行い（フィールドワークや社会調査のためのプレ質問紙作成）、問題意識の解決のための資料やデータを収集する。そのため、適切な方法を用いて、研究テーマを実証的に検証できるようになる（E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布したグループ用の研究計画書を達成するための具体的なスケジュールを作成する。 ④復習（120分） 研究計画書のスケジュールの修正を行う。
9	①授業テーマ グループによる研究活動 2 ②授業概要 研究計画に基づき、各グループは研究活動を行い（フィールドワークや社会調査のためのプレ質問紙作成）、問題意識の解決のための資料やデータを収集する。そのため、適切な方法を用いて、研究テーマを実証的に検証できるようになる（E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布したグループ用の研究計画書を達成するための具体的なスケジュールを作成する。 ④復習（120分） 研究計画書のスケジュールの修正を行う。
10	①授業テーマ グループによる研究活動の報告 1 ②授業概要 各グループは研究活動の報告を行い（各グループ 20分）、研究計画書の内容、そしてスケジュール通り活動が進んでいるかどうか、全員議論し、検討する。そのため、適切な調査方法を実践する前段階の学識と探求心を養うことができるようになる（E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布した活動報告用のフォーマットに基づき、研究報告のレジュメを作成する。 ④復習（120分） 研究計画書のスケジュール、方法の修正を行う。
11	①授業テーマ グループによる研究活動 3 ②授業概要 研究計画に基づき、各グループは研究活動を行い（フィールドワークや社会調査のためのプレ質問紙作成）、問題意識の解決のための資料やデータを収集する。そのため、適切な方法を用いて、研究テーマを実証的に検証できるようになる（E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布したグループ用の研究計画書を達成するための具体的なスケジュールを作成する。

	④復習（120分） 研究計画書のスケジュールの修正を行う。
12	①授業テーマ グループによる研究活動4 ②授業概要 研究計画に基づき、各グループは研究活動を行い（フィールドワークや社会調査のためのプレ質問紙作成）、問題意識の解決のための資料やデータを収集する。そのため、適切な方法を用いて、研究テーマを実証的に検証できるようになる（E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布したグループ用の研究計画書を達成するための具体的なスケジュールを作成する。 ④復習（120分） 研究計画書のスケジュールの修正を行う。
13	①授業テーマ グループによる研究活動5 ②授業概要 研究計画に基づき、各グループは研究活動を行い（フィールドワークや社会調査のためのプレ質問紙作成）、問題意識の解決のための資料やデータを収集する。そのため、適切な方法を用いて、研究テーマを実証的に検証できるようになる（E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布したグループ用の研究計画書を達成するための具体的なスケジュールを作成する。 ④復習（120分） 研究計画書のスケジュールの修正を行う。
14	①授業テーマ グループによる研究活動の報告2 ②授業概要 各グループは研究活動の報告を行い（各グループ 20分）、研究計画書の内容、そしてスケジュール通り活動が進んでいるかどうか、全員議論し、検討する。そのため、適切な調査方法を実践する前段階の学識と探求心を養うことができるようになる（E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 事前に共有フォルダーに配布した活動報告用のフォーマットに基づき、研究報告のレジュメを作成する。 ④復習（120分） 研究計画書のスケジュール、方法の修正を行う。
15	①授業テーマ 前期のグループ活動のまとめ ②授業概要 各グループは、夏休み以降の研究活動活動に関する報告を行い（各グループ 20分）、学園祭での報告に向けて、現状での進捗状況の確認、アンケート実査の予定確認など研究内容について、再度全員で議論して検討する。そのため、適切な調査方法を実践する前段階の学識と探求心を養うことができるようになる（E1、G1、F1・F2、H1・H2、K1・K2、L1、M1）。 ③予習（120分） 共有フォルダーにある後期の研究活動報告のスケジュールを作成する。 ④復習（120分） 後期の研究計画書のスケジュールの修正を行う。
関連科目	ゼミナールⅡ・Ⅲ・Ⅳ（RMGT4602S・4603S・4604S）
教科書	特にありません。
参考書・参考URL	授業時に適宜指示をします。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 月曜日、火曜日：お昼休み
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント：25%、パブリックセキュリティ：25%、グローバルセキュリティ：25%、情報セキュリティ：25%

■危機管理学と法学のバランス
危機管理学：90%、法学：10%



Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.